

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 主要地方道 東広島島向原線 道路改良事業に伴う測量等業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 道路 構造物基礎

ボーリング名	Bor. No. 3	調査位置	広島県東広島市八木松町正力地内	北緯	34° 27' 26.1685"
発注機関	広島県 西部建設事務所 東広島支所	調査期間	令和4年 7月 15日 ~ 令和4年 7月 25日	東経	132° 42' 49.4400"
調査業者名		主任技師		現代理人	
コ ン 定 者		ボーリング責任者			
孔口標高	T.P. 246.67m	角 度	180° 上下 90° 0°	方位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°
地盤勾配		使用機種	東邦地下工機 D1-C48	エンジン	ヤンマー NFD13
総削孔長	12.00m	ポンプ	東邦地下工機 BG-3C		

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色 調	相 対 密 度	相 対 稠 度	地 質 時 代 名	記 事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験					試料採取	室 内 位 置 試 験	削 孔 月 日				
												深度-N値図								深 度 (m)	試 料 採 取 番 号	探 取 方 法	試 験
1	244.87	1.80	玉石混じり砂礫	玉石混じり砂礫	Sm-R	淡褐	rd2		完新世	直径10~15cmの硬質な玉石を含む緩い砂礫である。(河床材料) 玉石が全体に占める割合は2割程度であり、礫分は70~80%である。礫は重円礫・亜角礫からなる。基質は中砂・粗砂主体の砂からなる。深さ0.6m以深では、基質は暗褐色の有機質なシルト混じり砂ないしシルト質細砂である。	07/25 1.30	9	1.15	1	2	6	9	300	1.00	P3-1	⊖	粒度	7/20
2	243.67	3.00	玉石混じり砂礫	玉石混じり砂礫	Sm-R	淡褐	rd5		後期白亜紀	岩塊を含む締った砂礫である。岩塊の最大粒径はコアの長さで12cmであり、全体に占める割合は1~2割である。基質は粗砂主体の砂からなる。		75	2.35	16	34	50	300	2.35	P3-2	⊖	粒度		
3												12	3.10	3	3	6	12	3.00	P3-3	⊖	粒度		
4				強風化花崗岩	SCs-G	黄褐と淡褐	rd3			所々に岩脈の見られる岩石組織の明瞭な花崗岩である。深さ3.0~3.6mおよび5.4~6.3mには岩脈が分布しており、細粒の完結等粒状組織を持つ閃緑岩ないし斑れい岩と見られる。著しく風化しており、割れ目が認識できない柱状コアとして採取され、指で容易に崩すことができる硬さである。岩脈部はさらに軟らかく、カッターの刃が容易に入る程度の硬さである。崩した試料は細砂混じり砂状であり、岩脈部は細砂状である。		20	4.15	4	6	10	20	300	4.45	P3-1	⊖	粒度	
5												29	5.15	11	10	8	29	5.00	P3-5	⊖	粒度		
6												21	6.15	5	6	10	21	6.00	P3-6	⊖	粒度		
7	239.67	7.00										56	6.45	18	17	15	50	7.00	P3-7	⊖	粒度		
8												68	7.43	16	27	7	50	7.42	P3-8	⊖	粒度	7/21	
9				風化閃緑岩						N値50以上の閃緑岩岩脈および風化花崗岩である。深さ7.4~8.4mおよび9.4~11.4mは閃緑岩の岩脈であり、上部に見られるものよりも暗い色調である。全体的に著しく風化しており、指で容易に崩すことができる硬さの柱状コアとして採取される。崩した試料は砂状であり、花崗岩部では細砂混じり砂状である。深さ11.4m以深の花崗岩は礫状コアが主体となる。		107	9.10	30	20	40	50	140	9.00	P3-9	⊖	粒度	
10												125	10.10	36	14	20	50	10.00	P3-1	⊖	粒度		
11												115	11.05	33	17	30	50	11.00	P3-1	⊖	粒度		
12	234.67	12.00								着岩後の孔内水位 (いずれも作業前の泥水位) は深さ1.9~1.3mに認められ、河川水位よりも低い位置にある。		500	12.00	50	30	50	30	11.18	P3-1	⊖	粒度	7/22	